

東久留米市立中央中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	漢字力や文法などの基礎的な力を身に付けようとする姿勢はうかがえるが、応用問題になると受け身になってしまう生徒も見受けられる。	知識・技能の分野では範囲を定めて練習すれば、必ず得点につながるよう配慮し、易から難へとスモールステップで学習を進める。	◎小テストや休み明けテストについても必ず範囲を示し、8割以上を合格とし、努力を称える工夫をする。
	自分のことばで考え、答えたりまとめたりする学習において、自主的に考える生徒と考える習慣のついていない生徒との差が大きい。	授業で発問機会を多く設け、生徒が発言を重ねることで、深くかつ多角的な考えができるようにし、その場でキーワードや解答への道筋を確認する。その上で考える時間を作り、考えや答えを書かせる。	◎発言も回数や内容を評価する。書く課題は、設定量の8割を超えるとB評価、更に根拠に基づいた考えならA評価というように生徒に得点化して返却する。全員B評価以上を目指す。
社会	問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見をや考えを友達に伝えたりする活動を苦手とする生徒が多い。	段階を踏んで問題解決能力を高めるため、「課題設定→教科書などを用いた情報収集→分析・考察→新たな課題設定」の学習の流れを定着させる。	◎ワークシートをこまめに回収して習得状況を確認し、全員が評価B（おおむね満足できる）以上を目指す。
	班活動を通して生徒の言語活動の機会を増やす。	タブレット端末を活用した班活動を行う。タブレットを活用することで生徒の意見を出しやすくする。また言語化が苦手な生徒のために、得意な生徒と一緒にさせる。	◎定期考査で正答率60%を目標とする。
数学	基礎的な計算力は付いてきたが論理的な思考力が弱く、数学的な論証ができない。	結論を重視するのではなく、「なぜ」を追求した授業を展開していく。	◎定期的に小テストを実施し、小テストの達成度の80%を目指す。
理科	化学変化やイオンの様子を化学反応式などで表したりすることに苦手意識を持つ生徒が見られる。	プリントや小テストで復習する機会を増やし、記号や式に慣れるようにする。	◎確認テストで、7割の生徒が7割以上の正答率を目指す。
	計算して数値を求めることが苦手な生徒が見られる。	簡単な計算問題で練習をして、自信をもって数値を求められるようにする。	◎小テストや確認テストで、7割の生徒が5割以上の正答率を目指す。
音楽	努力しようとする姿勢がある生徒が多い。その努力が表現の工夫につながるようにする	音楽記号や読譜の仕方について復習し、表現の工夫に役立たせていく。	◎歌唱学習では、表現の工夫について考えさせ、ワークシートに記入させる。7割以上の生徒が、概ね満足できるB以上の評価を目指す。
	鑑賞した楽曲を説明する力に個人差があるため、説明できる力を身に付けさせる。	視聴覚機器などを活用し、分かりやすく提示する。良い例は、教師から提示し共有する。	◎ワークシートの記述課題で、7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を達成できるようにする。
美術	授業や制作では集中して取り組める生徒が多い反面、発想をするのが苦手な生徒が見られる。	段階的に発想ができるようなワークシートを作成する。	◎ワークシートの記述課題で、7割の生徒がB以上の評価を目指す。

美術

制作に遅れが出る生徒がいる。

練習できる取組や見通しをもたせるようなワークシートを作成する。

○どの単元のワークシートにも練習課題を作成し、7割以上の生徒が、作品評価でB評価以上を達成できるようにする。

保健体育	意欲的に取り組む生徒もいるが、なかなか記録は伸びていない。	競技の特性や練習ポイントを明確に伝え、多く練習できるように時間を取る。	○毎時間学習カードで振り返りを行い、8割以上の生徒が自ら課題解決できる力を付ける。
	基礎体力が低いがトレーニング等を取り入れ、いろいろな競技に生かしていく。	毎時間基礎トレーニングを取り入れる。	○各競技ごとに評価テストの種類を増やし、多面的な角度から評価を行い、8割以上の生徒が目標を達成できるようにする。
技術	意欲的に取り組んでいる生徒は多くいるが、技能の定着が今ひとつ習得できていない。	本題の工夫をするとともに、基本的な練習ができる時間を取り入れ、作業に慣れる場を増やす。	◎制作課題で、7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を達成できるようにする。
家庭	レポート作成に意欲的でない生徒がいる。	I C Tを活用して内容について調べたり、自分の意見をレポートにまとめたり、友だちに伝えたりする。	○発展的な学習に意欲的な生徒を6割以上にする。
外国語	基本的な語句の習得ができていない生徒が多くいる。	デジタル教科書を利用し、音読練習に取り組むと同時に基本語句のリストを配布し、練習させる。	○定期的に確認テストを行う。6割以上の習得を目指す。
	スピーキングの力を付けたいが、苦手な生徒が多く、練習が必要である。	GIGA端末を利用して、スピーキングの練習に取り組む。	○パフォーマンステストを行い、半数以上の生徒に5割以上達成させる。
徳 特別の 教科 道	善悪の判断ができるようになった。しかしそれが行動に移されていないことが多い。	授業内で実践できていない原因を問いかけ、各自に実生活の場面を考えさせるように発問していく。	○ワークシートの記述から態度の変容を見取る。
問 総合的な 学習の 時	情報活用能力はあるが、活用の目的を理解する力が足りていない。	各時間で何のために活動しているのかを明確に示していく。	◎発表の内容から目的をもって調べ学習を行ってきたのかを評価する。5割以上の生徒が達成することを目指す。